

氏名	清水 純
学位の種類	修士 (看護学)
学位記番号	修士 第 155 号
学位授与年月日	平成 25 年 3 月 7 日
学位論文題目	精神科救急病棟で勤務する看護師の職務ストレスの 特殊性

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	160	(ふりがな) 氏 名	しみず じゅん 清水 純
修士論文題目	精神科救急病棟で勤務する看護師の職務ストレスの特殊性		
<p>目的： 精神科救急病棟という精神科治療環境において、当該病棟で勤務する看護師の職務ストレスに着目し、その特殊性の実態について明らかにすることである。</p> <p>方法： 精神科救急病棟に勤務する看護師 10 名に対して、インタビューによる半構造的面接を実施した。また、面接におけるデータの補強を図る目的で、研究対象者がどのような職務ストレスを持ちながら看護業務に従事しているのか参加観察を行った。面接内容で得られたデータに関しては、質的帰納的手順にて分析した。</p> <p>結果： 面接内容の分析により、【看護師としての存在が脅かされる】【複雑な治療環境に伴う看護師の不全感とジレンマ】【上下関係に伴う忍耐と不満】【逃げ場のない環境で試される看護師の臨床能力】【精神科救急における職業倫理の揺らぎ】【精神科救急医療システムにおけるネットワーク不足】【家族の治療参加と休息への阻害要因】の、7つの上位カテゴリーが抽出された。</p> <p>考察： 精神科救急病棟は、患者からの暴力や暴言による負担などから【看護師としての存在が脅かされる】ことが多く、また一般科では経験したことのない異質な状況により、【逃げ場のない環境で試される看護師の臨床能力】が問われることが研究対象者の語りから明らかとなった。そして、そこには【複雑な治療環境に伴う看護師の不全感とジレンマ】が存在していた。また精神科救急病棟の設置によって、看護師による行動制限(隔離・身体拘束)の実施や解除の判断など、治療への参加の役割が生じているが、【上下関係に伴う忍耐と不満】や【精神科救急における職業倫理の揺らぎ】により、この役割は影響を受けていた。 精神科救急病棟は、精神科救急医療システムに位置付けられたものであり、このシステムの未整備な状況を【精神科救急医療システムにおけるネットワーク不足】として、研究対象者は捉えていた。また、精神科救急病棟看護の家族ケアや介入の方法を模索していく中で【家族の治療参加と休息への阻害要因】という困難な状況に突き当たっていた。</p> <p>総括： 研究対象者は、精神科療養病棟や精神科急性期治療病棟など、他の精神科機能病棟に勤務する看護師との共通の職務ストレスを有しており、これに加えて、精神科救急病棟に勤務する看護師特有の職務ストレスに曝されていることが明らかとなった。その背景には、精神科救急病棟という特殊な治療環境に付随する職務ストレスに加えて、新たな精神科救急医療システムの中で生じる問題および困難な状況から、役割葛藤や戸惑い、職業倫理への揺らぎなどの多様な要因が複雑に絡み合い、精神科救急病棟に勤務する看護師の職務ストレスの特殊性として生じていることが示唆された。また、本研究の結果により、精神科救急病棟の看護師のストレスマネジメントのあり方や精神科救急看護実践への幾つかの知見を得ることができた。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。